

**研究名：**肺癌患者におけるインターフェロン- $\gamma$  遊離試験（QFT 検査もしくは T-spot 検査）

**利用する診療情報：**以下の基準に合致した患者さんの診療情報

- ・ 当院の肺癌データベース（2004 年～2013 年）に登録されている、初回肺癌治療症例
- ・ 結核既往の有無が判明している症例
- ・ QFT 検査もしくは T-spot 検査情報を有する症例
- ・ X 線、CT 等の画像データの解析が可能な症例
- ・ 抗酸菌培養データの解析が可能な症例

**研究責任者：** 呼吸器内科 呼吸器センター長 田村厚久

**研究の意義・目的・方法：**

結核既往は肺癌発症の危険因子や予後因子の一つとされていますが、詳細はよく分かっていません。結核感染の指標である QFT 検査や T-spot 検査を行った肺癌患者さんの診療情報を検討することで結核と肺癌の関係への理解が深まり、診療上の利益につながると考えています。

**研究計画書等の公表：**

この研究に関連した各種データについて知りたい場合は、担当医師を通じてその情報の開示を求めることができます。また、ご希望があれば、研究計画書や研究の方法に関する資料を閲覧したり、ご提供することも可能です。ただし、他の患者さんの個人情報など、情報の種類によっては開示できないものがあります。

ご不明な点がございましたら担当医師にご相談ください。

独立行政法人国立病院機構 東京病院  
病院長 松井 弘稔